

いちみやの芸術文化

- 特集「郷土史家・森徳一郎を追う」
- 加入団体の紹介
- これからの催し
- 愛知県文化協会連合会の催し（報告）

2013.3

第24号

一宮市芸術文化協会

森徳一郎自筆の著書群（一部）
（所蔵：一宮市立中央図書館）

「一宮市」には、一宮市博物館・一宮市三岸節子記念美術館・一宮市尾西歴史民俗資料館など先人の残した文化を紹介する施設があります。私たちの「身近な文化」を学んでみませんか？

郷土史家・森徳一郎を追う

郷土史家・森徳一郎

森徳一郎は、一宮市出身の郷土史家です。全国的にも有名な縄文時代の遺跡である馬見塚遺跡を発見・報告し、『一宮市史』を編さんしたことで知られています。

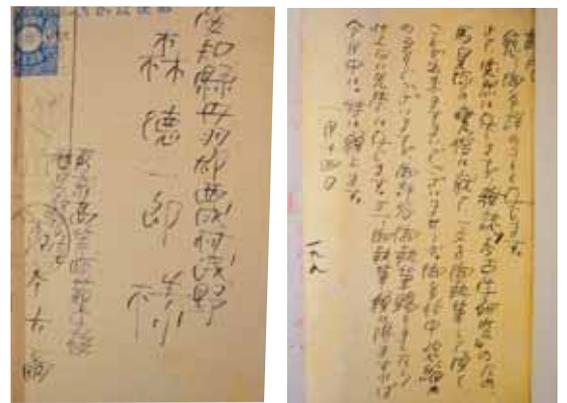
徳一郎は、明治十八年（一八八五）十一月二日に丹羽郡浅野村（現在の一宮市浅野）の味噌醤油醸造の家に生まれました。岐阜県立東濃中学校中退後、青年時代は俳人を目指し、佐藤紅緑・河東碧梧桐に学び、浅野守・吐句一樓などと号しました。

徳一郎が二十六歳の頃、浅野村内の浅野長政公宅跡の顕彰を志します。大正三年（一九一四）に浅野史蹟顕彰会を結成し、浅野長政公宅跡の公園化に尽力しました。大正六年（一九一七）四月浅野史蹟公園の記念碑除幕式が行われ、その際に配付されたのが『浅野荘と浅野氏』でした。この本を契

機として、徳一郎の郷土史家としての人生が始まったと言えます。後に、徳一郎は「此本を作るために、大正元年以来浅野史蹟を中心として、戦国時代の尾張関係史料を蒐めましたのが病みつきで、郷土史に興味をもち」（『一宮市史資料本の解説』より）と、郷土史研究のきっかけを記しています。

馬見塚遺跡の発見

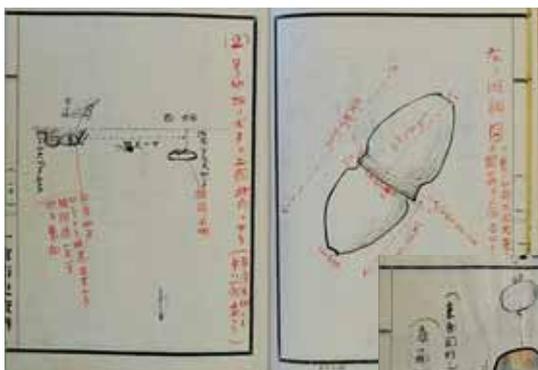
馬見塚遺跡は、大正十四年（一九二五）に徳一郎によって発見され、全国的にも尾張平野を代表する、有数の縄文時代の大集落遺跡として現在まで知られてきました。しかし発見した当時は、尾張平野部には先史時代の遺跡は存在しないと考えられていたため、にわかには学会でも信じがたく、驚きをもってその発見は受け取られました。大正十四年秋、徳一郎は馬見塚区長から畑地で採集した石器を見せられました。し



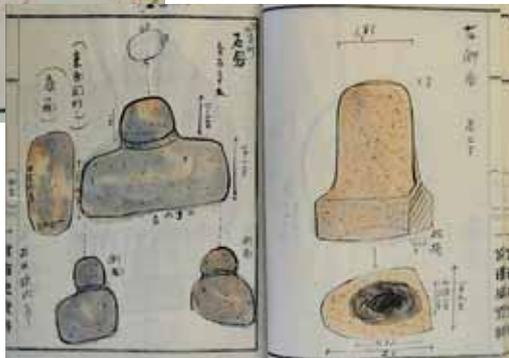
▲東京の研究者、森本六爾からの葉書。この葉書の依頼によって、馬見塚遺跡についての詳細な報告を『考古学研究』に掲載しました。（所蔵：一宮市立中央図書館）

かし、その時は「是が石器時代遺蹟からでもたものとするれば大木を伐るに用ひた石の斧だとも云へませうが、そんなものは此地方に有る筈はないが然し斯うした物が一個きり出たとは思議だから尚一層注意して頂きたい」（『馬見塚壘棺群の真相（一）』より）と言うのみで、詳しく調査することはありませんでした。しかし翌年の夏、また奇妙な形の石が畑から採集できたと区長から聞き遺物を見たところ、石斧や石冠、土器の破片でした。それらを確認した際、「私は自分の眼を疑つたー私は手にも取らずもう一度眺め廻したーが、正しく夢ではない見事な石器時代遺物のみではありませんか。晴天の霹靂！」（前掲同より）とその時の興奮を語っています。その次の日が

ら調査を始め、ついに「甕棺」(合せ口土器棺)を発見したことで、さらに遺跡の評価は高まりました。以来、大場磐雄や森本六爾など、各地の様々な研究者を馬見塚に案内するとともに、『馬見塚二タ子出土物略図』に発見者や出土遺物・出土状況の詳細を記録し考察を続け、結果を『考古学研究』などの学会に発表し、馬見塚遺跡が全国に名を馳せる契機となりました。



▼『馬見塚二タ子出土物略図』より、出土遺物の注記
(所蔵：一宮市立中央図書館)



▲『馬見塚二タ子出土物略図』より、甕棺出土状況の注記
(所蔵：一宮市立中央図書館)

『一宮市史』編さん

郷土史研究を続ける中、徳一郎は大正十四年(一九二五)一宮市史編さんを委嘱され、資料収集を開始しました。収集した資料の表紙には、「紙も製本のも名古屋を真似て、表紙の浮出しマーク古鏡形も私の考案執筆」(『一宮市史資料本の解説』より)



▶『一宮市史』資料
(所蔵：一宮市立中央図書館)

したものを使うほどで、

市史編さんに情熱をそそいでいたことがうかがえます。その後、近隣の町村との合併を前に、昭和十四年(一九三九)に十四年の歳月を経て、『一宮市史』を刊行しました。

ふるさとの偉人を見直す

『一宮市史』の編さんが終わった後も、続いて『一宮市史 西成編』や『起町史』を刊行するなど、精力的に郷土史の編さんを行いました。その編さん事業と平行して、徳一郎自身の多岐にわたる研究も続けられ、多数の著書をまとめました。地域の人々に

「森徳さん」と親しまれ、一生を郷土史の研究に捧げた森徳一郎は、昭和四十七年(一九七二)永眠しました。生前、幼くして亡くなった双子の弟徳治郎を思い、「おれわせんならん」(『随筆 観音のへん』より)と語った通りの生涯でした。没後四十一年、森徳一郎の業績を今一度見直すことで、わたしたちが暮らす一宮を改めて振り返るきっかけとなるのではないのでしょうか。

(一宮市博物館 名和奈美)



▲森徳一郎自筆の著書群(一部)。表紙にはそれぞれに違うものを選んでおり、森の洒落っ気とこだわりがうかがえます。
(所蔵：一宮市立中央図書館)

【附記】本稿を作成するにあたり、一宮市立中央図書館には写真掲載の許可をいただきました。ここに深謝の意を表します。

【参考文献】

『尾張史料の新研究』、『一宮市史資料本の解説』、『随筆 観音のへん』など

～これからの人生を豊かに生きる～

私達は、今が青春であると、一歩踏み出した元気な仲間が集まった、絵画をこよなく愛する団体です。毎月第1、第3木曜日の午後に尾西南部生涯学習センターで、三輪清弘先生を講師に、ユーモアを混ぜながら楽しく、時には厳しく、絵を描く喜びを教えていただきながら活動しています。発足して五年、「心豊かに皆で楽しく」という結成からのモットーを大切に活動しています。

去年の5月には玉堂記念木曾川図書館で、絵画展を開催しました。大作に挑戦し、出展にこぎつけるまでに苦勞した会員もいましたが、その作品を展示したときの喜びは、何ものにも代えがたいものになりました。会員の創意工夫により、700名もの方々にご高覧いただき、味わうことができた喜びと、驚き・達成感は忘れられません。

9月には三岸節子記念美術館で他のグループと

一緒に開催する尾西展にも参加しました。私達の参加する一番大きな展覧会で、更なるレベルアップを求めて、毎年真剣に取り組んでいます。他にも、普段とは違った雰囲気を楽しむことができるスケッチ旅行なども行っています。

絵画をとおして、会の仲間や、他のグループとも絆を深め、楽しく自己研鑽に努めていきたいと思えます。ぜひ一度、教室を見に来てください。



◀ 絵画展にて

【問合せ先】三浦 健治 ☎(058)398-1769

一宮市尾西市民俳句会は、毎月第2土曜日に「起つどいの里」で、誰でも自由に参加できる俳句教室を開いています。俳誌の輪読と、持ち寄った自分たちの句を自由に推敲するという楽しく気軽な教室です。

普段は「尾西牡丹会」「尾西新樹会」という俳句の団体と一緒に活動しており、その定例行事として毎月第3土曜日の午後に、尾西歴史民俗資料館で、詠む題が決められている兼題を一句と、自由な題で詠む雑詠を四句持ち寄って、句会を開催しています。また、会員の懇親と研修のために、原則として泊まりと日帰りの吟行会を年1回ずつ行っています。

毎年の一大会事としては、他の団体や一般の方にも広く参加していただいて「一宮市尾西俳句大会」を尾西生涯学習センターで開催しています。

俳句は難しく、縁のないものと、頭から決めら

れて敬遠されがちですが、実際やってみると意外と簡単に取り掛かることができ、やればやる程、面白さを感じることができます。また友人も増え、何よりお金がかからず、いつでもどこでも作ることもできるので、頭の体操にもなり、健康増進にもつながります。

初心者の方でもベテランの方でも、どなたでもお気軽にお問合せください。



◀ 2013年 新年句会にて

【問合せ先】土井 卓美 ☎61-0199

加入団体の紹介

一宮第九をうたう会 (いちのみやだいくをうたうかい)

(声楽・合唱部門)

一宮第九をうたう会は、今年で結成25周年を迎えます。昭和63年10月12日に一宮青年会議所主催による「いちのみや市民音楽会・山本直純と第九をうたおう」に参加した者の中から、「このまま解散するのは惜しい」「もう一度、第九を歌おう」という声があり、同年12月に発足しました。

会員全員で精力的に活動を行っており、現在は隔年で定期演奏会を開催し、今年がちょうどその年にあたります。結成25周年記念事業の第1弾として、1月20日にi-ビルで「ニューイヤーコンサート」を開催しました。第2弾としては秋に「第17回一宮市民音楽会」を開催予定で、ドイツの作曲家であるカール・オルフが作曲し、1曲目の「おお運命の女神よ！」が有名な「カルミナ・ブラーナ」をメインに考えています。

他にも、毎年「愛知県合唱祭」や「一宮合唱祭」に参加し、愛知県合唱連盟主催事業への出演、そ

の他演奏会にも賛助出演しています。

私達の特徴は、ベートーヴェンの第九交響曲が基礎にあり、そのメッセージ「人類愛という大きな愛」を伝えていくことにあります。これからも地域文化の向上に貢献したいと思っています。毎週火曜日、午後7時からカトリック一宮教会ホールにて練習をしています。ぜひ見学に来てください。どなたでも歓迎いたします。



◀ 2013年ニューイヤーコンサートにて

【問合せ先】高井 光信 ☎72-6210

加入団体の紹介

表千家尾西古田社中 (おもてせんげびさいふるたしやちゅう)

(茶道部門)

お茶処であるこの尾張地方では、お抹茶でおもてなしがしたい、お茶会での作法を学びたいという方が多いようです。また、日本の伝統文化である茶道は味を楽しむだけではなく、季節のお花やお菓子、掛け軸や茶器を見て楽しむ、日本の和を感じさせてくれます。

私達は、旧尾西市の文化講座終了後に、生活の中に潤いをと自主グループを立ち上げ、30有余年になります。お稽古は先生のお宅で金曜日の午前と土曜日の午後に、また尾西生涯学習センターの日本間で月曜日の夜間に行っています。発表の場としては、毎年、秋に行われる尾西公民館文化祭や尾西華道展・お茶会などがあります。

昨年は先生の友人の茶室開きの折に、茶事の勉強をさせていただき、秋には奈良県にある西大寺の大茶盛式に参加できました。

また、常滑市の陶芸教室へ作陶に出かけ、抹茶々

碗、菓子器などを作りました。1作1作ご指導のもと、できあがった素晴らしい作品に、会員は皆、大変満足していました。

普段のお稽古は和気あいあいと、「今年も楽しく、厳しいお稽古に」と頑張っています。いつでもどなたでも大歓迎です。「一期一会」を大切にするお稽古をぜひ見に来てください。



◀ 発表会を終えホッと一息

【問合せ先】鬼頭 佳子 ☎62-4700

文化情報



「華」 川浦碧澗

《市および市内公共施設の催し》

一宮市博物館

☎(46)3215

企画展「近代の洋装と毛織物

〜文明開化のコスチューム〜

日時 4月27日(土)〜6月2日(日)

午前9時30分〜午後5時

(入館は午後4時30分まで、

月曜及び、祝日の翌日休館。

以下同じ)

内容 近代の大礼服や軍服などを

展示し、日本における服装

の洋装化について紹介しま

す。

観覧料 一般 200円

高大生 100円

小中生 50円

※市内小中生・65歳以上無料(以下同じ)

企画展

「阿弥陀信仰と木曾川流域」

日時 6月15日(土)〜7月28日(日)

午前9時30分〜午後5時

内容 木曾川流域の阿弥陀信仰に

ついて紹介します。

三岸節子記念美術館

☎(63)2892

常設展「三岸節子 花の祭典」

日時 4月9日(火)〜7月15日(祝)

午前9時〜午後5時

(入館は午後4時30分まで、

月曜及び、祝日の翌日休

館。)

内容 各年代に描かれた花の作品

を中心に展示し、様々な姿

をみせる「節子の花」の魅

力に迫ります。

観覧料 一般 320円

高大生 210円

小中生 110円

※市内小中生・65歳以上無料

尾西歴史民俗資料館

☎(62)9711

「第15回懐かしの

SPレコードコンサート」

日時 3月20日(祝)

午後1時30分〜3時30分

内容 イギリス製の蓄音機でSP

レコードの邦楽・洋楽23曲

を聴きます。

入場料 無料

生誕120年記念

特別展「市川房枝展」

日時 5月25日(土)〜7月7日(日)

午前9時〜午後5時

(入館は午後4時30分まで、

月曜及び、祝日の翌日休

館。)

内容 明治後期から大正にかけて、

婦人運動家として活躍した

一宮市明地出身である市川

房枝の生涯を紹介します。

「市川房枝展」関連事業

記念講演会

内容 婦選運動に尽力した市川房

枝に関する講演会を開催し

ます。

※詳しくは5月号広報を参照。

講座「美濃路探訪〜春・尾張編〜」

日時 ①5月12日(日)

午後1時30分〜3時

②5月19日(日)

午前9時〜午後4時30分

内容 江戸時代の主要な街道であ

った美濃路について、歴史

と現在の様子を講義と現地

学習で学びます。

①講義

②バス現地実習(かなり歩

きます。)

定員 37名(①のみは48名)

※要参加費・要申込み。詳しくは

4月号広報を参照。

一宮市民会館

☎(71)2021

「舟木一夫コンサート2013」

日時 4月6日(土)午後3時30分

(開場は30分前)

入場料 S席 8,000円

A席 7,000円

※全席指定・未就学児入場不可、以下同じ

『TIBOLANヴォーカリスト

森友鳳士Acoustic Live 2013

『男たちの宴』

日時 6月15日(土) 午後5時

(開場は30分前)

入場料 5,000円



『狂俳月例会』

【問合せ先 一宮狂俳壇連盟】

☎ (51) 22806

日時 3月9日(土)・4月13日(土)

5月11日(土)・6月8日(土)

午後1時

会場 葉栗公民館

内容 各自10句持参、互選により

優秀作を記録に残します。

(初心者歓迎)

参加料 無料

『市民短歌教室』

【問合せ先 真清短歌会】

☎ (62) 4654

日時 3月10日(日)・4月14日(日)

6月9日(日) 午後1時

会場 一宮スポーツ文化センター

内容 真清短歌会委員により実作

指導します。(初心者歓迎)

参加料 無料

申込み 当日直接会場

『春の市民短歌吟行会』

日時 5月17日(金) 午前9時

行先 徳山ダム、横蔵寺(岐阜県

揖斐郡揖斐川町)他

対象 どなたでも

参加料 2,500円(昼食付き)

申込み 4月22日(月)までに事務局

☎ (84) 0013へ連絡

『第6回 彩の会水彩画展』

【問合せ先 彩の会】

☎ (62) 9661

日時 3月12日(火)~17日(日)

午前9時~午後5時(17日

は午後3時30分まで)

会場 尾西歴史民俗資料館

内容 野菜シリーズと自由なテ

マで約20点の作品を展示し

ます。

入場料 無料

『市民俳句教室』

【問合せ先 一宮市民俳句教室】

☎ (73) 5504

日時 3月24日(日)・4月28日(日)

5月26日(日)・6月23日(日)

午後1時

会場 一宮スポーツ文化センター

内容 当季雑詠3句を一宮市民俳

句教室委員が指導します。

(初心者歓迎)

参加料 無料

申込み 当日直接会場

『春の市民俳句吟行会』

日時 5月28日(火) 午前9時

行先 芭蕉翁生家、上野城(三重

県伊賀市)他

対象 どなたでも

参加料 2,500円(昼食付き)

申込み 5月10日(金)までに事務局

☎ (84) 0013へ連絡

『市民川柳教室』

【問合せ先 一宮川柳社】

☎ (77) 4536

日時 3月24日(日)・4月28日(日)

5月26日(日)・6月23日(日)

午後1時

会場 一宮スポーツ文化センター

内容 自由吟および課題吟を一宮

川柳社委員が指導します。

(初心者歓迎)

参加料 無料

申込み 当日直接会場

『民謡まつり』

【問合せ先 民謡長澤会】

☎ (62) 6768

日時 3月31日(日) 午前10時30分

(開場は30分前)

会場 尾西グリーンプラザ

内容 三味線・太鼓の演奏と共に、

民謡を唄います。また、舞

踊、マジック等の賛助出演

もあります。

入場料 無料

『小作品展』

【問合せ先 花畑】

☎ (87) 0037

日時 4月1日(月)~5月31日(金)

午前9時～午後3時。(土日祝日を除く)

会場▼大垣共立銀行木曾川支店口

ピー

内容▼会員の水彩画の力作を展示します。会期中、作品の入れ替えも行います。

入場料▼無料

『尾彩 第6回水彩画展』

【問合せ先 尾彩】

☎(69) 0430

日時▼4月16日(火)～21日(日)

午前9時～午後5時(21日は午後3時30分まで)

会場▼尾西歴史民俗資料館

内容▼会員の水彩画の力作を展示します。

入場料▼無料

『春季謡曲大会』

【問合せ先 一宮謡曲同好会】

☎(62) 0966

日時▼4月21日(日)午前9時30分～

会場▼産業体育館

内容▼素謡、連吟、仕舞等の発表
入場料▼無料

『石刀まつり』

【問合せ先 一宮民俗芸能連盟】

☎(73) 5221

日程▼4月21日(日)

会場▼石刀神社(今伊勢町馬寄)

内容▼山車からくり・献馬

『サロンコンサート』

【問合せ先 一宮音楽家協会】

☎(87) 2827

日時▼5月12日(日) 午前11時～

会場▼一宮スポーツ文化センター

内容▼会員による演奏会。モーツァルトのピアノソナタス・グゼンブルグ、ドボルザークの

スラブ舞曲集Op.72より第2番、第7番など。

入場料▼無料

『2013 一宮総合美術展』

【問合せ先 生涯学習課】

☎(84) 0013

日時▼6月6日(木)～9日(日)午前10時～午後5時(9日は午後4時30分まで)

会場▼一宮スポーツ文化センター

内容▼加入団体から選ばれた作家の「日本画」「洋画」「彫刻・立体」「工芸」「デザイン」「書」「写真」の作品を展示します。

入場料▼無料

《県文化協会連合会の催し》(報告)

【愛知県文連西尾張部芸能大会】

12月2日(日)、扶桑文化会館を会場に、西尾張部に所属する10の各文化協会の団体により、愛知県文連西尾張部芸能大会が開催されました。発表は「箏曲」をはじめ、「大正琴」「民謡」「八木二力演奏」「民謡」「銭太鼓・歌謡」「吹奏楽」と多種にわたりました。



本協会からは「旭雅楽会」の皆様が出演し、「乙女の舞」とも呼ばれている「豊栄の舞」と、平和祈願の舞である「浦安の舞」という演目を披露いたしました。龍笛や箏、笙などの、凛としながらも、とても心地よい音色と、見ている者の心を落ち着かせてくれる舞は、雅楽が日本伝統の音楽であるということを感じさせてくれました。

当日は、どの団体も日頃の練習の成果を存分に発揮しようと気持ちがいっぱいであり、寒さが厳しい師走を迎えた時期に、大変心温まるひとときを、過ごすことができました。

【題字】 武山翠屋
【編集・発行】 一宮市芸術文化協会

【連絡先】 一宮市芸術文化協会事務局(市教育委員会生涯学習課内)
〒493-8511 愛知県一宮市木曾川町内割田一の通り27番地
TEL 0586-84-0013 / FAX 0586-86-1809